



TITLE:

和歌山県白浜町瀬戸漁港における アンドンクラゲ(刺胞動物門, 箱虫 綱)の大量発生

AUTHOR(S):

久保田, 信; 田名瀬, 英朋

CITATION:

久保田, 信 ...[et al]. 和歌山県白浜町瀬戸漁港におけるアンドンクラゲ
(刺胞動物門, 箱虫綱)の大量発生. 南紀生物 2006, 48(2): 144-144

ISSUE DATE:

2006-12

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/188311>

RIGHT:

© 南紀生物同好会

南紀生物, 48(2): 144, 2006

和歌山県白浜町瀬戸漁港における
アンドンクラゲ(刺胞動物門, 箱虫綱)の大量発生

久保田 信*・田名瀬英朋**

Shin KUBOTA and Hidetomo TANASE : Mass occurrence of *Carybdea rastonii* (Cnidaria, Cubozoa)
in Seto Harbor, Shirahama, Wakayama, Japan

アンドンクラゲ *Carybdea rastonii* HAACKE, 1886 は北海
道から沖縄県沿岸にかけて広く分布する中型のクラゲ
で、海水浴シーズンに出現し、人を刺傷して炎症を起こ
させる毒の強いクラゲの一種である(ジェーフィッシュ,
2006)。久保田による1999年から2005年までの和歌山県
西牟婁郡白浜町瀬戸漁港での毎日1回の定期的な目視観
察(主として早朝実施)では、アンドンクラゲが出現し
たことは一度もなかった。ところが2006年8月初旬に、
初めて大量のアンドンクラゲの成体が遊泳していたのを
久保田が確認した(図1)。昼間には最多で60個体あま
り、夜間には100個体以上が群泳していた。8月中は本
種の出現がほぼ毎日のように続き、個体数の増減はある
ものの、昼夜を問わず8月2日から17日まで頻繁に見ら
れた。その後はまったく見られなくなった。なお、ア
ンドンクラゲの瀬戸漁港での出現は、Cheryl Lewis AMES氏
(Smithsonian Institution, USA)により上記より数日前に確
認されていた。情報を提供して下さった氏に深謝致しま
す。

今回の突然のアンドンクラゲの大量出現の理由を推量
すると、本年は梅雨が長く続き7月末までの雨量が多
かったことと、その後の海水の高温、特に表層で30℃を
超える日々が連続して続いたことによるポリプからクラ
ゲへの変態の促進と遊離したクラゲの成長のよさによる
ものであろう。AMES氏によると瀬戸臨海実験所周辺海
域でのプランクトンサンプル中にアンドンクラゲの幼体
の複数個体を採集したとのことなので、他の海域から生
体が流れ寄ってきたものではなく、このあたりで自然に
発生したものである可能性が高い。

一方、田名瀬による1983年以降の瀬戸漁港での不定期
な観察によると、アンドンクラゲが大量に出現した年月
は、1983年8月27日の約60個体(早朝時)の確認と1984
年8月17日の数百個体(夜間)の確認である。また1984

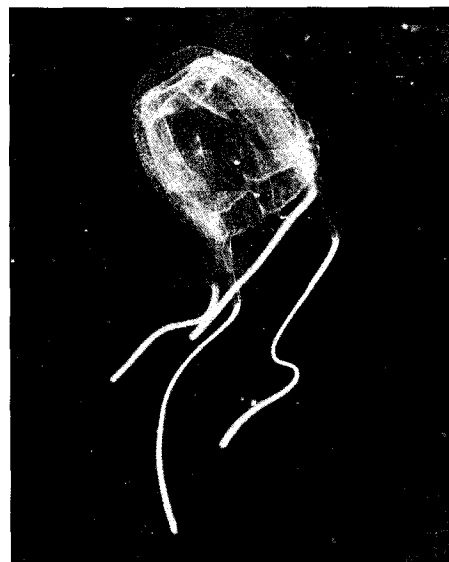


図1 和歌山県白浜町瀬戸漁港に2006年8月に出現し
た傘高約3.5 cmのアンドンクラゲの成熟個体(紀
伊民報、山口一夫氏撮影)

年8月4日に、白良浜で観光客が刺傷されたクラゲが白
浜町観光課より瀬戸臨海実験所に持ち込まれ、田名瀬と
伊藤立則博士によりアンドンクラゲであると同定された
経歴もあるので、1984年の8月にはこの種が大量発生し
たのであろう。

以上のことから、アンドンクラゲは環境状況によつて
は白浜町沿岸では多数の個体が8月に発生し、海水浴客
を刺傷することもあるといえる。

引用文献

ジェーフィッシュ, 2006. クラゲのふしぎ. 255頁. 技
術評論社, 東京.

* 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町459 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所
〒649-2211 Shirahama 459, Nishimuro, Wakayama, Japan

Seto Marine Biological Laboratory, Field Science Education and Research Center, Kyoto University

** 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町676